

研究課題：全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパスモデルの開発 課題番号：H20ーがん臨床ー一般ー002  
研究代表者：独立行政法人国立病院機構 谷水正人

## 1. 本年度の研究成果

がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画およびがん診療連携拠点病院の指定要件の見直しにともない5大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん及び乳がん）の地域連携クリティカルパス（以下連携パス）の整備が求められた。がん診療における医療機関の役割分担を進め、がん医療の質の保証と安全・安心の確保を図ることが必要である。本研究ではがんにおける連携パスの全体像を概括し、代表的な治療計画を例に地域連携パスのひな型を研究開発する。

### 【がん診療における地域連携クリティカルパスの目的】

クリティカルパスとは標準化された診断治療体系に基づいて疾患管理の全体像を可視化、構造化することであり、連携パスは医療機能に応じた役割分担の明示である。すなわちその目的は

第一には医療の質を保証すること、  
第二には医療機関の機能分化、役割分担を進めること、  
第三にはそれを広く国民に明示すること、である。

### 【5大がんの地域連携クリティカルパスの定義づけ】

がん診療連携拠点病院指定要件に示された要件を補強し、研究班としての定義は「がん診療連携拠点病院と地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表及び患者用診療計画表から構成されるがん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。がん医療の質と安全・安心を保証しかつ均てん化に資する地域医療連携のツールであり、信頼関係に基づく地域の医療連携ネットワークの構築、稼働が前提となる。」とした。単に診療計画表だけを準備して患者の転医を促すことがあっては連携診療の質と安全を損なうことになりかねない。

### 【5大がんの地域連携クリティカルパスの作成指針】

定義に基づき、目的を達成するために下記のごとく作成方針を定めた。

- A) 診療ガイドラインに沿って作成する
- B) 医療機関の機能と役割分担を明記する
- C) 診断、治療、外来、緩和ケア、在宅、看取りまで
- D) 拠-病-診-看-在-薬 - 連携を包含する
- E) 共同診療計画を各疾患の治療法ごとに作成する
- F) 連携の意志がある地域の全医療機関が使えるもの
- G) 連携を説明し同意を得る
- H) 緊急時対応の取り決めを明記する
- I) 紙のひな型を提示する。将来的には電子化を見据える
- J) 連携医療機関と定期的に協議する場を設ける

### 【連携パスとして用意するもの】

連携パスとして次の4つを作成する。

- (1) 医療機関の役割分担表：「平成18年の医療制度改革を念頭においた医療計

画の見直しの方向性」に示されたものをベースにする。これにより「何でもできます（施設内完結）」の主張を排除したい。

(2) 共同診療計画表：オーバービューの計画表は連携パスの本体に当たる。

(3) 私のカルテ：患者が携帯し、連携の情報共有ツールとなる。

(4) 医療連携のパンフレット：医療連携を広く国民に明示し、啓発する。「病院に通院する人も近くのかかりつけ医を持ちましょう」を啓発のスローガンとする。

#### 【進捗状況&年次計画】

本年度（1年目）の進捗：医療機関の役割分担図、乳がん、胃がん、大腸がん、肺がんの連携パスのひな型を作成した。平成20年12月中にホームページ公開する（四国がん公開ページからリンク）。愛媛県医師会のアンケート調査（配布2883（開業医1106、勤務医1777）回収983通（回収率34%）では約70%の医師が連携医療に協力的であり、術後のフォロー、経口抗癌剤の継続、緩和医療の領域で関心が高いことが示された。

2年目：1年目の成果物を検証する。5大がんについて連携パスひな型の数を充実させる。連携パスを動かすために必要な仕組み、特に地域医療ネットワークの構築、医療連携室の拡充、連携コーディネーターの育成について検討する。

3年目：検証結果を踏まえて、全国モデルを展開する。関連学会、関連学会誌等に報告する。

## 2. 研究成果の意義及び今後の発展性

連携パスは医療現場の必要から発生したものであり、医療提供体制の再構築について方向性は明確である。本研究班では地域連携パスモデルとパスの稼働を可能とする仕組みを提案していく。がんの連携パスが質の向上と安心・安全を確保したがん医療の推進につながることを期したい。

## 3. 倫理面への配慮

本研究では患者情報の個人情報とはしない。成果物を利用して各個人の診療に活用する場合には診療録と同等の扱いとし、診療録等個人情報保護規定を厳守する。研究、検証には個人情報は抹消してデータを収集・検証する。

連携パスの臨床症例への使用に当たっては使用医療機関の診療情報管理委員会、クリニカルパス審査委員会、臨床研究審査委員会等各施設所定の委員会の審査、承認を得る。

## 4. 発表論文

1. 谷水正人 5大がんの地域連携パスに寄せる同床異夢をひもとく 看護管理 18 (2) 125 2008
2. 谷水正人, 河村進, 菊内由貴, 船田千秋, 小暮友毅, 松久哲章 がん領域における地域連携クリティカルパス開発への道程 医薬ジャーナル 44 (8) 97-103 2008
3. 船田千秋, 菊内由貴, 関木裕美, 宮脇聡子, 西岡順子, 菊屋朋子, 谷水正人, 河村進 がん患者の継続医療を保証する退院調整連携パス 治療 90 巻3月

増刊 800-807 2008

4. 河村進, 横山隆, 谷水正人, 大西ゆかり, 西岡久美, 杉本はるみ, 船田千秋  
リンパ浮腫診療の地域連携とその必要性 治療 90 巻 3 月増刊 793-799 2008
5. 谷水正人, 河村進, 成木勝広, 藤井知美, 高岡聖子, 那須淳一郎, 菊内由貴,  
宮脇聡子, 西岡順子, 船田千秋, 関木裕美, 小暮友毅, 松久哲章 がん診療  
連携拠点病院に期待される 5 大がんの地域連携クリティカルパス 治療 90  
巻 3 月増刊 727-731 2008
6. 田城孝雄 在宅 地域医療計画と在宅医療 治療 90 巻 3 月増刊  
1300-1310 2008
7. 長山雅俊, 田城孝雄 循環器領域 急性心筋梗塞の医療連携パス 榊原記念  
病院 治療 90 巻 3 月増刊 968-977 2008
8. 田城孝雄 循環器領域 竹田総合病院におけるプロトタイプ循環器連携パス  
治療 90 巻 3 月増刊 944-953 2008
9. 田城孝雄 地域医療計画における連携パスの意義 治療 90 巻 3 月増刊  
707-714 2008
10. 谷水正人 成木勝広 藤井知美 三好京子 井上るり子 中岡初枝 西岡久美 井  
上実穂 関木裕美 菊内由貴 亀島貴久子 四国がんセンター緩和ケアチームの  
立ち上げと活動森田達也、木澤義之、戸谷美紀編 緩和ケアチームの立ち上  
げ方・進め方 東京 青海社 緩和ケアチーム 2008 22-24
11. 谷水正人 菊内由貴 船田千秋 がんの在宅拠点 田城孝雄編著 在宅医療ガ  
イドブック 東京 中外医学社 196-201 2008
12. 谷水正人 菊内由貴 船田千秋 がん患者の在宅医療におけるがん診療連携拠  
点病院の役割 佐藤智編集 明日の在宅医療大 3 巻 在宅での看取りと緩和  
ケア 東京 中央法規出版 176-188 2008
13. 佐藤靖郎 がん 胃・大腸がんの地域連携クリティカルパス 治療 90 巻 3 月増  
刊 764-769 2008
14. 佐藤靖郎 これだから連携はやりがいがある! 地域連携のキーパーソン 地  
域完結型医療のための包括的地域連携 地域連携network1 巻2号 66-74 2008
15. 佐藤靖郎 胃癌術後地域連携パスと栄養管理 栄養-評価と治療 25 31-34  
2008
16. 佐藤靖郎 がん連携のポイント~2 施設における導入経験を通して~ 20-25  
新・医療連携別冊 エルゼビアジャパン
17. 佐藤靖郎 がんの地域連携クリティカルパス 地域連携クリティカルパスの  
今後の展開IV 地域連携クリティカルパスの意義と今後の展開3 日本医療  
マネジメント学会監修 35-44 2008
18. 佐藤靖郎 地域連携クリティカルパス 5. 胃・大腸癌がん クリティカル  
パス最近の進歩 日本医療マネジメント学会編集 じほう社 179-192  
2008
19. 河村進, 横山隆, 大西ゆかり, 西岡久美 中岡初枝, 浅野尚美, 関木裕美 外来ナース  
が知っておきたいリンパ浮腫ケアの知識 外来看護最前線 12 48-60 2008
20. 田城孝雄 地域における脳卒中連携体制の現況と課題 病院 67 (9)

21. 田城孝雄 医科歯科連携による在宅医療の推進 地域連携クリティカルパスにおいて歯科をどう位置付けるか 日本歯科評論別冊 2008 58-63 2008
22. 田城孝雄 病院経営の中での地域医療連携室 医療活性化に向けた地域医療連携室の役割 地域医療連携が支える医療の質向上 地域医療連携室の働きを中心に 新医療 35 巻 1 号 142-145 2008

## 5. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③最終卒業校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属研究機関及び現在の専門(研究実施場所)	⑤所属研究機関における職名
谷水 正人	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	岡山大学医学部 昭和 57 年・医学博士・消化器内科	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター統括診療部・臨床研究部	統括診療部 外来部長
河村 進	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	川崎医科大学医学部・昭和 56 年・学位なし・形成外科	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター形成外科	第 2 病棟部長
藤 也寸志	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	九州大学医学部・昭和 59 年・医学博士・外科	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター消化器外科	専任診療部長
池垣 淳一	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	群馬大学医学部・昭和 57 年・医学博士・麻酔科	兵庫県立がんセンター麻酔科	緩和医療担当・麻酔科部長
奈良林 至	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	山形大学医学部大学院・平成元年・医学博士・病理	埼玉医科大学国際医療センター緩和医療科	緩和医療科教授
望月 泉	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	東北大学医学部・昭和 53 年・医学博士・消化器外科	岩手県立中央病院	副院長
佐藤 靖郎	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	福島県立医科大学昭和 63 年・医学博士・外科	社会福祉法人恩賜財団 済生会若草病院外科	副診療部長 兼外科部長
武藤 正樹	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	新潟大学医学部大学院・昭和 53 年・医学博士・外科	国際医療福祉大学三田病院	副院長

住友 正幸	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	徳島大学医学部・昭和 56 年・学位なし・呼吸器外科	徳島県立中央病院 外科	医療局次長、外科総括部長
梨本 篤	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	新潟大学医学部・昭和 50 年・医学博士・外科	新潟県立がんセンター新潟病院	臨床部長
林 昇甫	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	兵庫医科大学医学部・平成 6 年・学位なし・外科	市立豊中病院 緩和医療科	医員
田城 孝雄	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	東京大学医学部・昭和 59 年・医学博士・内科、公衆衛生学	順天堂大学 公衆衛生学	准教授